



庄司紗矢香 (ヴァイオリン)

Sayaka Shoji, Violin

唯一無二の芸術的多様性とレパートリーへの緻密なアプローチで、国際的に認められるヴァイオリニスト。

その音楽的言語に対する非凡な洞察力は、これまで拠点を持ってきたヨーロッパと日本、二つの背景の混合に由来する。

東京に生まれ、3歳でイタリアのシエナに移住。キジアーナ音楽院とケルン音楽大学で学び、14歳でルツェルン音楽祭にて、ルドルフ・バウムガルトナー指揮ルツェルン祝祭管弦楽団との共演でヨーロッパ・デビュー、及びウィーン楽友協会に出演した。

1999年、パガニーニ国際コンクールにて史上最年少優勝。以来、ズーピン・メータ、ロリン・マゼール、セミヨン・ビシュコフ、マリス・ヤンソンス、ユーリ・テミルカーノフなど多数の一流指揮者と共に共演を重ねた。これまでに共演したオーケストラはイスラエル・フィル、フィルハーモニー管、クリーヴランド管、ロンドン響、ベルリン・フィル、ロサンゼルス・フィル、ニューヨーク・フィル、聖チェチリア国立アカデミー管、チェコ・フィル、マリンスキー管、NHK響など多数。

2024/25年シーズンのハイライトには、エサ=ベッカ・サロネン指揮サンフランシスコ響、カーチン・ウォン指揮クリーヴランド管、ヤープ・ファン・ズヴェーデン指揮エバグリーン響、トンキョウストラー管、シュトゥットガルト室内管とのコンサートが挙げられる。2024年秋にはアラン・アルティノゲル(首席指揮者)とフランクフルト放送響の日本ツアーに参加。その名演が評価され、2025年に第37回ミュージック・ベンクラブ音楽賞を受賞した。

室内楽では、ジャンルカ・カシオーリとの15年にわたる共演のほか、モディリアーニ・カルテット、ベンジャミン・グロスヴェナー、ベアトリス・ラナ、キアン・ソルタニ、ステイヴン・イッサーリス、ステイヴン・コヴァチェヴィッチ、ヴィンキングール・オラフソンなど、多くのアーティストと長年にわたって共演しており、フィルハーモニー・ド・パリ、ウィグモアホール、サントリーホール、ハンブルク・ライツハレなどで定期的にリサイタルを行っている。

庄司紗矢香はまた、多様な芸術分野とのコラボレーションでも世界的に高く評価されている。

舞踊家・振付家の勅使河原三郎とのフィルハーモニー・ド・パリでの共演のほか、安藤忠雄、杉本博司らとも精力的にコラボレーションを行っている。

2007年に創作した実験的な視覚音楽プロジェクト「Synesthesia」は、2014年のグループ展覧会「Au-delà de mes rêves」で、草間彌生、ソフィ・カル等の著名な芸術家たちと並び選ばれた。

これまでドイツ・グラモフォンから、ユーリ・テミルカーノフ指揮サンクトペテルブルク・フィルとの録音や、メナヘム・プレスラーとのリサイタル・アルバムなどを含む11枚のアルバムをリリース。2022年と2025年には、ジャンルカ・カシオーリとのモーツァルト: ヴァイオリン・ソナタのアルバムをリリースした。

2016年、芸術分野で顕著な影響を及ぼした者に与えられる「毎日芸術賞」を受賞。2012年には日経ビジネスの「次世代を創る100人」に選出。

使用楽器は上野製薬株式会社より貸与されているストラディヴァリウス「レカミエ」1729年製。

Sayaka Shoji & Gianluca Cascioli Duo Recital

ジャンルカ・カシオーリ (ピアニスト/作曲家/指揮者)

Gianluca Cascioli, Pianist/Composer/Conductor

1979年イタリアのトリノ生まれ。ピアノをイモラのピアノ・アカデミーでフランコ・スカラ(カルロ・ゼッキの教え子)に師事。94年ルチアーノ・ベリオ、エリオット・カーター、マウリツィオ・ポリーニ、チャールズ・ローゼンが審査員を務めたウンベルト・ミケーリ国際ピアノ・コンクールで優勝し、国際的な注目を集めた。

以来ヨーロッパ、北米、日本の主要な音楽都市に演奏の場を広げている。ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、ボストン交響楽団、シカゴ交響楽団、ニューヨーク・フィルハーモニック、ロサンゼルス・フィル、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団、ミラノ・スカラ座フィルハーモニー管弦楽団など著名なオーケストラと、クラウディオ・アバド、ウラディミール・アッシュケナージ、ジョン・ミンソフ、ダニエル・ハーディング、リカルド・ムーティ、ロリン・マゼール、ズーピン・メータ、ユーリ・テミルカーノフなど名だたる指揮者との共演は数えきれない。また、ムステイスラフ・ロストロポーヴィチ、ユーリ・バシユメット、マキシム・ヴェンゲーロフ、フランク・ペーター・ツィマーマン、クレメンス・ハーゲン、ザビーネ・マイヤー、アルバンベルク弦楽四重奏団などとも共演。

録音活動も積極的に行っており、ドイツ・グラモフォン、デッカ、ノヴァリス、アルモニア・ムンディといったレーベルから数々の作品を発表。庄司紗矢香とはモーツァルトのヴァイオリン・ソナタ(ピアノと楽器による/DGG)などをリリース。

カシオーリは、作曲をトリノのジュゼッペ・ヴェルディ音楽院でアレッサンドロ・ロイおよびアルベルト・コッラに師事。彼の作品は、いくつかの作曲コンクールで優勝し、重要な会場で演奏されている。

